

5年前にブックスタートに参加した
お子さんが、来年4月に小学校へ入学する

いいむら えみ こ
飯村笑子さん

Q お子さんが来年、小学校に入学されるそうですが、これまでの成長をどのように見えていますか。

A ブックスタートを受けてから、本との交流が始まりましたが、本にとっても親しんでいるという印象を持っています。受け取った本は、ポロポロになるまで親子で読みました。子どもにとって本は、繰り返し読んでもあきないようで、「もっと読んで、もっと読んで」とせがんできます。繰り返し読み聞かせているうちに、絵本中の言葉を、自分でページをめくりながら言うことがあり、絵本で言葉を覚えるのはとてもいいことだなと感じました。

Q ご家庭での読み聞かせの様子を教えてください。

A 私自身は本にふれる機会があまり多くはないのですが、だからこそ、子どもには、本が身近な存在で、本を好きになってもらいたいです。主人などにも読み聞かせをしてもらっています。だんだんと言葉も覚えてきて、「自分で読んでごらん」と言って、読ませてしまうこともあります。でも、本を読んであげること、自分で読むことはまた別のようで、読み聞かせをしてあげると、より本を楽しんでくれていると私は感じます。

Q ご自身の子育てにおいて絵本はどのような存在でしたか。

A 自分がいらいる時やしかった後など、子どもが寝る前に本を読み聞かせると、逆に自分の気持ち落ち着くことに気が付きました。隣にいる子どもが「あはは」と笑う、言葉も覚えて、親子で楽しめる、そして自分もいやされる、絵本ってすごいなど、特別なものだと本当に思います。私の子どもが、好きな本に出会えたことは、本当に幸せなことだと思います。また、読み聞かせなどで知り合った方から年賀状が届いたり、子どもが小さい時に知り合った方で、今でもおつき合いのある方がいたり、本が結ぶ縁というものも感じます。



ブックスタートの
ボランティアとして活動している **あしかが 足利みどりさん**

Q ブックスタートの準備段階から現在まで、ずっと活動に携わっていただいています。この約7年を振り返っていかがですか。

A 少しずつですが、ブックスタートの活動が浸透してきたと

感じています。子どもたちが落ち着いて、人の話を聞けるようになってきたと思います。単に読書をすすめるよりも、読み聞かせなど、具体的な姿を見せることが大切で、その意味においても、ブックスタートはとても意義のあることです。最近、4か月健診後のブックスタートに父親が参加することも多く、その姿をととてもほほえましく感じています。ブックスタートでの読み聞かせをきっかけに、もっと、父親の子育てへの参加が増え、家族ぐるみでの読み聞かせが活発になって欲しいです。

Q 読書を通じた子育てについてどのようにお考えですか。

A ご家庭で本に親しみ、読書を通じて心を育てていくことをお願いしたいです。小学校に入学する6歳までの子育ては非常に大切であり、ぜひこの時期にたく

さん読み聞かせをしてください。両親の声は、お母さんのおなかの中にいるときからすでに聞いているものだから、お母さんやお父さんのやさしい声で語りかけ、読み聞かせをすることが子育てのスタートだと思います。絵本の楽しいフレーズや優しい言葉を読み聞かせることで、時にはお母さんやお父さん自身がゆったりとした気持ちになることもできます。読み聞かせは“こころのくすり”にもなるのです。

Q 子育てをされている方、そして、これから子育てをはじめの方へのメッセージをお願いします。

A 日本語は、子どもたちにとって母語になるわけで、そのお手本はお母さんやお父さんが話している言葉です。ぜひ、きれいな、そして、正しい言葉で、日ごろからお子さんに語りかけてください。ブックスタートをきっかけに、歯磨きをするのと同じくらい、読み聞かせや読書の習慣が、生活の中に溶け込んで欲しいと思います。セカンドブック（※）など、読書の習慣を続けるためのフォローも大切です。これからもさまざまな機会にメッセージを発信していきたいです。

※【セカンドブック】

学齢期の読書活動を定着させるための基礎となる、「家庭での読書活動」を支援するため、就学時などに本を提供する活動のこと。

【問合せ】 町立図書館 ☎63-4155